

高瀬神社 社報

越中一宮

第41号

平成 26 年 4 月 1 日

越中 高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部スタジオ

社頭講話

「ともに生きるために」

宮司 藤井秀弘

今冬は晴天の日が多く、積雪も少なかったのですが、気温の低い日が多く、道路には凍結防止剤が大量に散布してありました。スリップ事故は怖いですがこの散布剤が溶けて流れたあと、環境への影響は無いのか気になりました。また、少ない積雪だったため、普段の生活も助かりましたが、これからの生活に支障（水不足や農作物への影響）がなにか心配しています。富山県は自然豊かな環境であるがゆえに例年通りの季節の風景でないとは何となく落ち着かないのは私だけでしょうか。

春は新芽の季節であり、新入生、新入社員の初々しい姿を目にする季節でもあり、何か喜び

に満ち溢れています。春がやって来ると村々では春祭りが行われ、再びめぐり来た春を喜び、神々に感謝を捧げます。この春祭りに大神様の御前に座して祝詞を奏上することは格別で、神職であることの喜びを強く感じます。子供の頃、父や祖父からお祭りのたびに「神職は神々に愛され、氏子崇敬者に信頼されなければ本当の神職ではない」と教えられました。

『吾が生命神より受けしものなれば神のまにまに生きんとぞ思ふ』と詠んだ父は九十七歳でこの世を去るまで生涯現役の神職でした。また、祖父は儀式について厳しい人で、お祭りが終るたびに奉仕ぶりを反省させられたことを思い出します。父、

祖父の教えを受け、生き様を目の当たりにしてきた結果、辛かったことが今は喜びとなり、私を支えてくれています。

人の喜びはそれぞれです。例えばテレビで宗教家が宗派の教えを説いておられることがありますが、私にとって何歳になっても新たな知識を得ることは一つの喜びであります。

個人の喜びは「自己満足」という言葉で表現されますが、あまり良い言葉ではありません。少人数の喜びも大切なことではありませんが、大勢で喜びを分かち合ったほうがその価値は高いと思います。昨今、自分本位の物事を考える人が増えました。たとえ自分の生活を支えてくれている人たちや、勤務している会社（組織）であっても、その関係についての判断基準はまず自分にとって損か得かということです。それでは人と人との結びつきや昨今頻繁に使われる

「絆」ということは絵に描いた餅になってしまいます。自分をほんとうに可愛いと思い、自分のためにと思うのなら、まず他人に喜びを与えることから始めるべきだと思います。自分の喜びを他人が喜んでくれたら、他人の喜びを自分の喜びにできたら、心は豊かになります。心が豊かになれば人と人との結びつきも豊かになります。自分のためだけに生きるのではなく、他人のためにも生きることが大切なのではないでしょうか。

美しい自然が、また祖先が、親が私たちに生きる力と喜びを与えてくれるように私たちも地域社会に喜びを与えることのできる行いに努め、ともに生きるための力となれるよう精進しなければならぬと思います。春という活力溢れる季節から力をもらい、それぞれの志をたてて頑張らしましょう。

祭 事 暦

節 分 祭

二月三日「節分祭」が斎行されました。当日は冬と春の分かれる「立春」らしい暖かい陽気につつまれ、大勢の参拝者が一年の幸福と無病息災を祈りました。



祝詞奏上に続いて神楽「剣の舞」を奉奏。「鬼は外、福は内」の掛け声に合わせ、神職と巫女が豆を撒きました。参拝者は「福」を呼び込もうと、熱心に「福豆」を集めていました。



参拝者には「福豆」を
授与致しました。

紀元節祭

二月十一日「紀元節祭」が行われ、神武天皇の建国の偉業を偲び、日本の更なる繁栄と世界の恒久平和を祈念しました。

本年も福
野松風会
（苗田美岳
会長）会員
二十名が建
国を祝い吟
詠を奉納し
ました。



（奉納曲）
・御本社

「春日の作」新井白石

「清明」杜牧

「雪梅」方岳

「春夕」佐藤一斎

「新年雪裏の梅花に賦す」

有智子内親王

「失題」古荘嘉門

・功霊殿

「弘道館にて梅花を賞す」

徳川 斉昭

「寒梅」新島襄

祈 年 祭

二月十七日「祈年祭」が斎行され、氏子崇敬者と共に五穀豊穰と産業発展、一年の安泰を祈りました。

祭典では神楽「浦安の舞」奉奏に続き、井波松風会（斎藤彰岳会長）の、吟詠奉納がありました。

【感謝状授与】

森田松夫殿（南砺市高瀬）



鎮 火 祭

三月八日、氏子並に地元消防関係者二十名が参列し、「鎮火祭」が斎行されました。

本殿での祭典終了後、雪の舞う中、鎮火行事が行われました。神話に基づく所作により、権宮司と南砺市消防団井波方面団高瀬分団・岩倉清孝分団長が瓢の「水」を、笠田武司副分団長が「砂」を、岩倉和弘部長が「川菜」を取って消火しました。火の恵みに感謝して、一年の無火災を祈りました。



平成二十六年 初詣

今年は十年ぶりとなる雪のないお正月となり、大勢の参拝者で賑いました。南砺警察署をはじめ、関係各位のご協力により、事故もなく初詣期間を終える事が出来ました。

旧臘二十日には、「向拝」や境内各所の「鳥居」の注連縄が張り替えられ、清々しく新年を迎えました。

【参拝者数】

十六万人（三が日）



一月三日、福野糸瓜句会（梅島くを会長）が開催されました。奉納句は次の通りです。

若水や出土柱根横たはる
大前を水の流る、淑気かな
拝殿に神鈴渡る淑気かな
読初的一句こだはり虚子句集
千支の馬駆ける案内絵初句会
八乙女山の寝姿よろし山眠る
大床の神楽太鼓の淑気かな
初日影生きとし生けるものへみな
姑を継ぎて馴染みて年用意
新婚の笑顔並びて年賀かな
神域を総て灯して年用意
小走りの巫女の鈴の儀初詣
御被いを受く一門や淑気満つ
新しき国旗を掲げお元日
恙無き友ら揃ひぬ初句会
意のま、にならぬ膝持ち去去年今年
御降や新妻らしく傘ひろげ
馨しき土器の神酒初詣
父の背に破魔矢握りていねむる子
水鳥の遺跡の空を数多飛ぶ
加賀流を嫁の自慢の雑煮かな
娘より貰ひし二年日記果つ
初明り御手洗川をほのと染め
書初へ逸る心や墨を磨る
一、二行添へて友らへ賀状書く
ステージの子の箏並びお弾初

梅島くを
若土 白羊
岩城 未知
田上 真知子
平野 孝純
北川 越草
今井 淳良
宇野 恭子
長谷 登世
岩倉 幸子
富田 みゆき
澤田 敦子
岡部 吉女
新山 武子
森田 桂子
中村 芳枝
直井 春枝
佐々木 春子
名村 五月
畑山 友子
窪田 悦子
三浦 葉子
北川 秀子
櫻井 恵子
五十嵐 千恵子
稲葉 佐智子

注連縄奉納講

注連縄奉納奉告祭

十二月二十日、注連縄奉納奉告祭が斎行され、高瀬神社注連縄奉納講（渡辺信作講元）講員十八名が参列しました。

本年は県西部の企業の代表や個人、三十六名から誠心が寄せられ、「向拝」「大鳥居」「功靈殿・高瀬稲荷社の鳥居」を同時に張り替えました。



富山青葉会旅行

一月二十一日より、氏子崇敬者の皆様と二泊三日の日程で、第六十二回 神宮式年遷宮で賑う伊勢の神宮をはじめ、熊野速玉大社、熊野那智大社、熊野本宮大社を参拝しました。

神宮では内宮、外宮参拝の後、普段入る事の出来ない古殿地（旧御殿）を拝観しました。熊野三山では各社の宮司様より熊野三山の歴史や、平成二十三年に甚大な被害をもたらした台風災害からの復興について懇切丁寧に説明いただき、有意義な初詣旅行となりました。



特別講演

富山竹田研究会

三月二十三日、「第七回 富山竹田研究会 特別講義・日本を正しく学ぼう」のため来県された、旧皇族の竹田宮家にお生まれになり、現在慶應義塾大学講師の竹田恒泰氏が参拝されました。

特別講義は参集殿で行われ、「古事記って面白い」と題して講演されました。

二百五十名を超える聴講者がありました。高瀬神社での講演は今回で二回目となりました。



我が家の人生儀礼

「人生儀礼」とは、人がこの世に生まれ、一生の間に行う神事儀式の事です。

祖先から伝えられた人生儀礼の一つ一つを大切に、感謝の心を持って生活しましょう。

今回は「初天神」「雛祭り」の様子をご紹介します。



南砺市高瀬
小西 美和ちゃん
章史くん
修矢くん



南砺市高瀬
岩倉 拓希くん

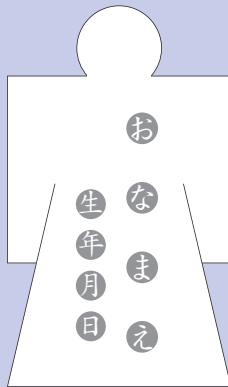
「平成二十六年夏越の大祓」のご案内

なごし おおはらえ

日時 六月三十日(月) 午後三時より

「大祓」は、知らず知らずのうちに犯した罪穢を半年に一度祓い落として元の清らかな心身に戻り、続く半年も健全に過ごせるよう願う神事です。

拝殿にて「大祓詞」を奉唱し、各人が「人形」に罪穢を移し、特に「夏越の大祓」は前庭に設けられた「茅の輪」をくぐり、心身を清浄にもどします。これからの暑い夏を健康に乗り切るための大切な神事です。どうぞご参列下さい。



※ご希望の方には案内状と人形を送付いたしますので、社務所までご連絡下さい。



全国16都府県

役員会開催

三月十七日(月)、伊勢国一の宮椿大神社(三重県鈴鹿市鎮座・山本行恭宮司)にて、「全国一の宮会役員会」が開催され、当社宮司(副会長)も出席しました。

正式参拝後、新木直人会長(賀茂御祖神社宮司)が議長となり、平成二十六年度総会開催の審議や、平成二十五年度会務中間報告がなされました。

尚、本年は伊勢の神宮にて、「平成二十六年度総会」が開催されます。



お守り

平成二十六年より授与しております、お守りを紹介します。

厄除守

初穂料 八〇〇円
厄除、開運を祈願するお守り。



こども守

初穂料 八〇〇円
県の花である、チューリップ柄のこどもお守り。お子さんの除災招福を祈るお守り。



第十五回 人形感謝祭のご案内

にんぎょうかんしゃさい

日時 七月二十日(日) 午前十時より

古くなった人形に感謝し、神社へ納めるお祭り「人形感謝祭」を行います。納められた人形はお祓いの後、お焚き上げをしてお別れします。子供の成長とともに使わなくなったり、壊れたりした「人形」や「ぬいぐるみ」をご持参下さい。



受付

午前九時から午前十時まで

(当日のみ受付)

祈願料

三千円からご志納願います

(みかん箱一つ程度)

※大量にある場合や大きな

ものについては、事前に

社務所へお問い合わせ下

さい。

(〇七六三)八二〇九三二

戌の日(安産祈願)

4月9・21日
5月3・15・27日
6月8・20日
7月2・14・26日
8月7・19・31日
9月12・24日
10月6・18・30日
11月11・23日
12月5・17・29日

腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。



ご案内

奉納

○絵画「樹暦」日展入選作

(豊受大神宮境内古木楠)

日展会友

津幡 光清 殿

平成二十六年三月十日

辞令

権宮司 藤井 秀嗣

神職身分二級上とする

平成二十六年三月十日

神社本庁

魚岸 一弥

出仕を命ずる

山下 翔子

小倉南留美

巫女を命ずる

平成二十六年四月一日

編集後記

東日本大震災発生から三年が経ちましたが、被災地では今も十万人以上がプレハブなどの仮設住宅で不自由な生活を余儀なくされています。

真の被災地復興が一日も早く進むよう、願うばかりです。



東日本大震災物故者慰霊祭
福島県いわき市久之浜町
東北六県神道青年協議会主催

【表紙写真】 一の宮の桜

新バンケットホール OPEN!!



この地で二千年の歴史をもつ越中一宮 高瀬神社は、縁結びの神様をまつる神社として多くの神前挙式を執り行い、お二人の幸福を願ってきました。

この伝統ある神聖な儀式は大切に守りつつ、新たな家族との絆を深める日として、披露宴とウェディングのあるべき姿を見直しました。

明るい光に満ちあふれた新バンケットホールが、その晴れの日のステージ。

お二人のさらなる幸福を願う高瀬神社のウェディング。

縁結びの神様に誓う伝統の結婚式を挙げていただく、一生に一度の日だからこそ、一日一組のカップルの為だけに、このバンケットは生まれました。



只今
御予約
受付中

新バンケットホールでのご結婚披露宴のご予約を承っています。
お気軽にお問い合わせ、ご相談いただきますよう、お待ち申し上げます。

あなたの人生に、神社がある。越中一宮 高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社

